

最終手段の格マーカーとしてのデ
— デ格の意識・逐語訳ダブル対訳コーパス¹ —
 加藤 鉦三 (信州大学) kinoene@shinshu-u.ac.jp
 Sean Collin Mehmet (松本大学) sean.mehmet@t.matsu.ac.jp

1. プロジェクトの概要

【目的】 本研究の目的は次の2点である。(1)日本語の助詞デを英語にどう訳すのかを、文の動作とデ格名詞を意味的に分類することで機械的に翻訳できるよう分析する。(2)その分析の元となる日本語文(新聞社説)とその英訳を収集し、分類し、それを分析編と意識・逐語訳ダブル対訳コーパス編の2部からなる『デの訳し方辞典』として報告書にまとめる。

【意義・特徴】 新聞社説の英語訳は逐語訳ではない場合の方がはるかに多いため、英語母語話者が逐語訳を用意し、**意識と逐語訳を並べたダブル対訳コーパス**を構築する。これにより、英語教員や翻訳者が自信を持って仕事ができるようになり、また生徒・学生が英作文をする時の強力なサポートとなる。さらに、前置詞に関しては、機械翻訳の大幅な精度向上が期待できる。

本プロジェクトの動機は次の通りである。

A: 英語は前置詞が豊富にある

B: 日本語の後置詞は次の二種類

①意味があるもの: カラ, マデ, へ, ト

②意味がないもの: ニ 「第三の格」という機能しかない

デ 「副詞マーカー」という機能しかない²

AとBから、カラ, マデ, へ, ト(と一部のニ)以外の副詞的関係は全てデで表示されることになる。だから、カラ, マデ, へ, トは前置詞とほぼ一対一対応であるが、デは一対多対応であるため、デ格を英訳する時、どの前置詞を当てるかをいちいち考えなければならない。その負担を軽減するためのコーパスを作る。

2. 副詞的に訳せないデ格

上記の日本語助詞体系の見方では、デは副詞マーカーであり、動詞と主語や目的語の関係を結ぶような機能はないものと見ていることになる。しかし、我々のコーパス(構築中)では、日本語でのデ格が、英語版では主語として訳されている事例が少なからずあり、そのような事例については加藤・Mehmet (2017)で報告した。

(1) デ格が**主語**として英訳されている事例

[手段]のデ: 公的制度で対応する → public programs provide ...

[イベント・機会]のデ: 国会で話し合う → the Diet will discuss ...

[場所]³のデ: 首都圏の大学では → Some private universities in the Tokyo metropolitan area have ...

¹ 本研究は JSPS 科研費 16K02917 の助成を受けたものである。

² 加藤(2007)参照。

³ 発表時は [場所] としていたが、今では [機関] とすべきであると考えている。

(2) デ格が節として英訳されている事例

2016_4_13 TPPに署名した12か国は、発効から4年間は交渉過程の公表を禁止することで合意した。

When signing the TPP pact, Japan, the United States and 10 other countries agreed that they would refrain from making the negotiation process public for the first four years after the pact goes into effect.

2017_3_20 政府が長時間労働の是正に乗り出し、経団連と連合も、実質的に青天井だった残業時間に上限を設けることで合意した。

The government has set out to rectify the practice of working long hours, and the Japan Business Federation (Keidanren) and the Japanese Trade Union Confederation (Rengo) have agreed to set an upper limit on the number of overtime hours.

2016_10_22 南シナ海の領有権問題を巡って、アキノ前政権下で悪化していた関係を改善することで一致した。

The two leaders agreed to mend ties between their nations, which were at odds over a sovereignty dispute in the South China Sea during the administration of former Philippine President Benigno Aquino III.

(2)では、いずれも agree が that 節または to 不定詞節を取るという形になっている。この that 節と to 不定詞節は、動詞 agree に対して副詞的に関係付けられているとは考えにくい。あえて言えば目的語として agree と共起していると考えられるべきであろう。そのため、このような事例は、上記のデ格の見方「デは副詞マーカ―」とは相容れない。

以下、本発表では、「デは副詞マーカ―」という見方を改定し、「デは最終手段の格マーカ―」という考え方を展開する。

3. デは最終手段としての格マーカ―である

冒頭に示した加藤(2007)の格助詞の見方は、次のように改定できるかもしれない。

(3) 日本語の格付与規則⁴

第1段階：主語はガでマークせよ 目的語はヲでマークせよ

着点と時間と非主語動作主⁵はニでマークせよ

出発点はカラで、限界点はマデで、方向はヘで、同列はトでマークせよ

第2段階：第1段階でマークされなかった名詞句にデを付与せよ

加藤(2007)の段階では、「デはその他の助詞で表されない副詞的な関係は全てデで表記せよ」と考えていた。それは、デは副詞的關係を表す最終手段であると見ていることになる。その動機は、デ以外の副詞的格助詞が意味と一対一対応になっているのに対し、デはそれら以外の意味關係を全部担当しているから、それを表現したいというものであった。しかし(3)はそれを質的に飛躍させ、「副詞的な關係」を、ただの「關係」に一般化していることに注意されたい。

この修正の経験的動機は、(2)で見た事例である。動詞「合意する」とそれが取っている合

⁴ 第1段階の詳細は後日の課題としたい。ここでは暫定的な考え方を示しておく。

⁵ 受動文の主語を指している。

意内容を表すデ格との関係は、少なくとも副詞的な関係ではなく、そのため翻訳者もそのようなデ格を節として訳している。つまり、英語ではこのようなデ格に当たるものは目的語的である。なお、次の検索結果が示すように、この種のデ格はヲ格を圧倒しており、ヲ格の誤用もしくは競合関係にあるものとは言いがたい。

(4) Google 検索結果 (2018/12/29)

"ことで合意した" 約 1,100,000 件 "ことを合意した" 約 109,000 件
"ことで一致した" 約 306,000 件 "ことを一致した" 約 31 件
cf. "ことに合意した" 約 722,000 件 "ことに一致した" 約 284 件

「合意する」については、いわゆる「格のゆらぎ」の範囲であろうが、「一致する」はデのみが自然である、という判定になるだろう。

このような事例については、上記(3)の格の見方は有利である。「合意する」や「一致する」と共起する要素のいわゆる「深層格」が何であるかという議論⁶とは関わりなしに、言い換えれば、意味に関係なく、他の格助詞が付与されなかった名詞句にデが自動的・盲目的にデが付与される、ということ(3)は主張しているのである。(3)は、別観点から見れば、助詞デの意味を考えることには意味がなく、デは残り物を何でも引き受ける格助詞である、というとても強い主張をしていることになる。

4. その他の事例と Google 翻訳

ここまでで扱ってきた、副詞的とは言いかねるデ格は、他にも次のようなものをあげることができる。以下、そのような事例の Google 翻訳出力と筆者らの正誤判定も並べて提示する。正誤判定は、{ / }の中で前がデの部分の評価、後ろがその部分以外の評価である。その下に、筆者らの正訳をつける。

副詞的とは言えないデ格の例とその Google 翻訳出力(G) (2018/12/30)

(5) 彼らは太郎が一万円支払うことで納得した。

G: They were convinced that Taro would pay 10,000 yen. {正/誤}

正解: They agreed that Taro would pay 10,000 yen.

(6) 罰金を一万円とすることで決まった。

G: It was decided by setting the penalty to 10,000 yen. {誤/誤}

正解: It was decided to make the penalty 10,000 yen.

(7) 私はそれを選ばなかったことで後悔した。

G: I regret not having chosen it. {正/正}

(8) 太郎は花子に新規事業のことで電話した。

G: Taro called Hanako for a new business. {誤/正}

正解: Taro called Hanako about the new business.

(9) 太郎は花子に／をお金のことで安心させた。

G: Taro reassured Hanako for / with money. {誤/正}

正解: Taro reassured Hanako about the money issue.

以上の例から、このデの用法について次のように言えそうである。

⁶ 例えば、深層格と表層格との対応を扱った国立国語研究所(1997)では、このようなデ格は扱われていない。

